

パネルディスカッション9：在宅介護の継続と充実のために

～利用者の生活支援のための多職種連携の在り方～

演題名	介護支援専門員の立場から ～多職種連携に求められる「連携」とは～
------------	----------------------------------

概要

地域の高齢者をはじめとした支援は、少子高齢化による大きな課題を受け、重要な局面を迎えています。次期制度改正に向けて、平成25年12月20日 社会保障審議会介護保険部会は、地域包括ケアシステムの構築、利用者負担の公平化についてなど介護保険制度に関する見直しの意見をまとめました。この中で、特に市町村の実態を含め予防事業を不安視する意見、認知症、特養の入所要件や利用者負担に踏み込んだ議論が行われました。

介護保険が施行以来、利用者・家族、利用者と直接かかわるスタッフの思いと制度や行政の姿勢などの間に立ちながら、私達は多くの事例や経験をしてきました。さまざまな視点から課題の多いといわれるケアマネジメントとサービスの現状、それをつなぐ介護支援専門員の思いをお話して在宅における専門職としての役割をお話したいと思えます。視点のことなる人々との多職種協働を実現するためには互いの専門分野の特性や方法について、きちんと理解することが重要です。現場で担当する人たちが、互いの主張を最後まで伝え、聞くことを大切にしなければ、利用者の思いを実現する生活は組み立てられません。それを実現して過程そのものが多職種協働だと考えます。

当協会のアンケート結果では、介護支援専門員が、適切な支援を実現するために、公正中立なケアマネジメントを行うことのできる環境を強く願っていることが示されていました。今後、さまざまな場面を通じて、生活者としての高齢者と私たち介護支援専門員が、利用者・家族、地域に暮らす人々にどのような支援ができるか、どのように地域づくりに貢献ができるか問われることになると思えます。

介護支援専門員の専門性と持ち前のフットワークの良さを発揮して、さらに期待される支援が、実現できるように邁進していきたいとおもいます。